

魅力的な酪農経営へ～乳房炎・分娩事故ゼロを目指して～

1 現在の農業経営の概要

経営地・氏名	北海道 石川 大輔 さん
経営開始年	平成26年（2014年）
営農類型	酪農
経営規模	成牛40頭
公庫資金ご利用歴	<就農時> 離農跡地の牛舎等設備取得及び乳牛導入のため青年等就農資金（37百万円）



2 就農までの経歴・就農のきっかけ

- ・愛媛県出身。生き物好きで、馬や牛などの大家畜を飼育したいという思いがあり、高校時代に北海道に移住することを決意し、帯広畜産大学に進学。
- ・大学卒業後は農協連、ワイナリー、チーズ工房に勤務の後、チーズ工房時代に知り合った上士幌町の酪農法人に2年間勤務。近隣の酪農家が離農する際に牛舎等の施設を引継ぎ、独立就農。

3 今後の抱負/後に続く新規就農者の方々に送るエール

◆今後の抱負◆

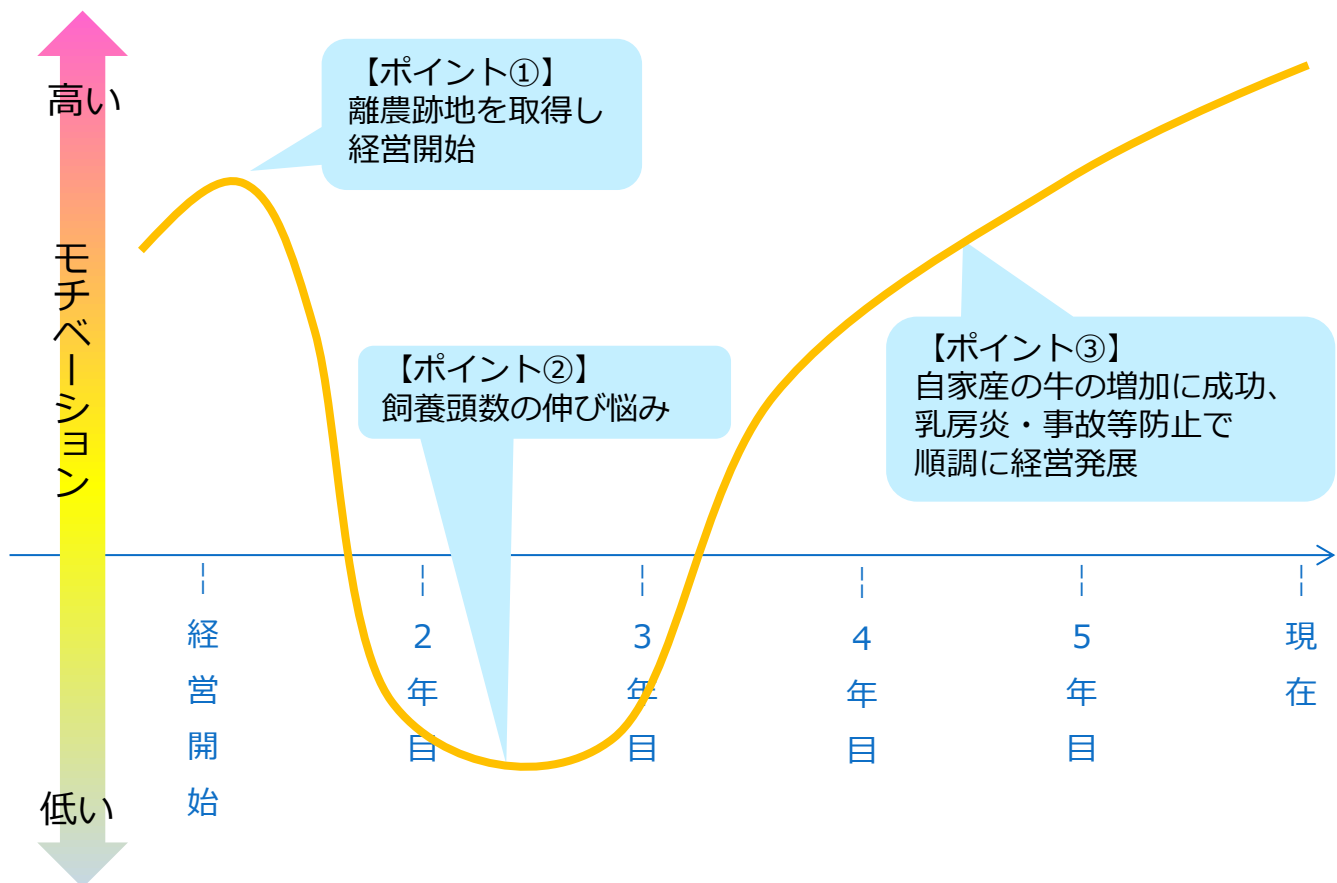
チーズ工房での勤務経験を活かして、将来的にはチーズなどの加工品製造にも挑戦したいが、当面は足元の生産基盤を確立することが第一。そのために、目が届くぐらいの飼養頭数で乳房炎や分娩事故をゼロにし、ロスを最小限にすることが大事だと考えている。また、牛1頭1頭を丹精込めて世話ができる環境であることが酪農の魅力だと考えており、従業員がその魅力を感じられる経営にしたい。

◆後輩の皆さんへ◆

実習で学ぶことがすべてではありません。実習で習ったとおりにやってもうまくいかないことも多くあります。独立し、自分で経営する中で、自分に合ったやり方を模索し、より良い経営を目指してください。



4 石川さんのこれまでの経営とモチベーショングラフ



5 モチベーショングラフのポイント解説

主なできごと / 経営上の課題と解決策

- ① 1年目：地元の農業者が離農する際に、離農跡地の牛舎等設備一式を取得しました。また、24頭の牛も併せて導入し経営がスタートしました。就農当初からTMRセンターを利用することで、牛の世話に集中できたことに加え、設備投資も最低限で済みました。
 - ② 2～3年目：当初導入した乳牛が妊娠していた子牛は交雑種や雄のホルスタインが多かったため、飼養頭数がなかなか増えませんでした。時には当初より減ってしまったこともありました。
 - ③ 4年目～現在：性判別精液を利用して雌の乳牛を順調に増やしていき、現在の規模まで拡大しました。また、乳価や個体販売価格が好調なことに加え、乳房炎や分娩事故の防止策の効果があり、順調に経営発展しています。
- ※ 疾病や事故を防ぐために様々な工夫をしています。たとえば分娩時は誰かが必ず立ち会えるよう分娩予定日の2週間前から毎日体温を測り、体温が0.5℃以上低下したら2時間おきに監視する事で必ず分娩に立会・介助し、分娩事故の防止に努めています。また、1日に何度も牛床を掃除し、牛を綺麗に保つことで乳房炎ゼロと蹄病ゼロにするだけでなく、牛への愛着を失わず大事にする意識を大切にしています。